

茨城県から千葉県の海岸における

ビロードキンクロ属 *Melanitta* 2種の個体数変動と分布

奴賀俊光（千葉大学・海洋セ）・○桑原和之（千葉中央博）・箕輪義隆・田邊以久雄・
綾 富美子・泉 宏子・本間 征・高島齋二（千葉市野鳥の会）・小川和子（JANUS）

ビロードキンクロ属 *Melanitta* のうち、日本近海では、主にクロガモとビロードキンクロの2種が越冬する。国内での分布域は主に外洋の浅海域で、主に砂浜海岸で越冬するとされている。Delany and Scott (2002) によるとクロガモの極東個体群の1%レベルは10,000羽、ビロードキンクロの1%レベルは8,000羽であるという。国内から、この1%を越える個体数は報告されていない。茨城県鹿島灘から千葉県九十九里浜にかけての砂浜海岸では、数千羽のカモ類が観察されてはいるが、クロガモやビロードキンクロなどの個体数は、まとめられていない。我々は、2000年から2003年に、茨城県から千葉県の海岸で個体数および分布を把握するための調査を行った。今回は、砂浜海岸での個体数と分布について報告する。

調査は、主に、茨城県鹿島灘、千葉県銚子市周辺の海岸、九十九里浜で行った。砂浜海岸は、およそ5-10 kmごとに調査区域を設けて、鹿島灘を4区域、九十九里浜を11区域に分けた。銚子の海岸は7区域に分けた。調査では、8倍程度の双眼鏡と20-30倍程度の望遠鏡、そして数取器を用いて個体数を数えた。月に1回以上、調査を行った。個体数は、調査区域ごとに集計した。また、調査区域間の個体数を比較するために、各調査区域の最大個体数から個体数密度（羽数/km）を求めた。

クロガモとビロードキンクロは、おおよそ10月から翌年の4月ころまで越冬した。稀に、数羽が越夏したが、クロガモの個体数は、越冬期間である2-3月に多く、5,000羽を越えることも少なくなかった。クロガモの極東個体群の1%レベルである10,000羽を越える調査地は数箇所あった。クロガモの最も大きな群れは、約150,000羽で、2000年3月11日に千葉県飯岡町飯岡海岸で確認された。ただし、ビロードキンクロの個体数はそれほど多くはなかった。ビロードキンクロの最も大きな群れは3,531羽でしかなく、2001年3月27日に千葉県の新川から栗山川間の砂浜で確認された。

クロガモは九十九里浜に多く、最大密度は北部で46,875羽/km、中央部で470羽/km、南部で9,677羽/kmが確認された。ビロードキンクロは、北部で384羽/km、中央部で16羽/km、南部313羽/kmが確認された。2種とも九十九里浜では、北部と南部に多く、中央部では少ないという傾向があった。鹿島灘では、クロガモとビロードキンクロのおおの最大253羽/kmと9羽/km、銚子では48羽/kmと11羽/kmが記録され、九十九里浜ほど多くはなかった。

クロガモとビロードキンクロは、東京湾岸の干潟では少なく、千葉県の外房の岩礁海岸では確認されなかった。越冬期には、2種とも、底質が砂の水深5-20mの海域で、主に軟体動物（二枚貝類）や甲殻類などを潜水して採食する。そのため、2種の分布には、餌である二枚貝類の分布や水深との関係があると考えられる。

引用文献：Delany, S. and Scott, D. 2002. Waterbird population estimates - third edition. Wetlands International Global Series No. 12. Wetlands International. Wageningen, The Netherlands.